

教育研究業績書

2023年 5月 1日

氏名 和田佳子

研究分野	研究内容のキーワード	
1. 教育社会学 (キャリア教育・人材開発・ 開発教育)	1) 若年者に対するキャリア形成支援のための教育技法および教材開発 2) 教育効果の高いインターンシップ・プログラムの開発研究 ①「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」(平成23-25年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)、代表:椿明美・札幌国際大学教授)、研究分担者 ②「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」(平成22-24年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)、代表:亀野淳・北海道大学准教授)、連携研究者 3) 大学生のキャリア教育・職業教育についての国際比較 ①「ビジネス分野における教育プログラムと職業能力のチューニングに関する研究」(平成29年度～平成31年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(C)、代表:江藤智佐子・久留米大学教授) 研究分担者 ②平成30年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業」(代表:吉本圭一・九州大学)の連携研究者として、2019年2月に韓国の職業開発機構(CRIVET)、専門職大学、敬仁女子大を訪問し行ったヒアリング調査結果を報告書にまとめた(共著)。 ③「文系専門教育と関連する職業統合的学習の可能性と汎用的キャリア教育研究」(H26～H29年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(C)代表:椿明美・札幌国際大学教授)の研究協力者として研究活動を行った。 ④ビジネス分野における学修成果・職業コンピテンシーの汎用性と専門性に関する日韓比較(令和2年度～令和4年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(C)代表:江藤智佐子教授 久留米大学)の分担研究者(継続)	
2. 実践心理学 (キャリア・カウンセリング)	1) 学生の就業支援に活かすキャリア・カウンセリング技法の研究 産業カウンセラー、国家資格キャリアコンサルタントとしての事例検討	
3. ビジネス・コミュニケーション	1) ビジネスマナーをはじめ、社会生活に欠かせないコミュニケーション能力育成のための教授法研究および教材開発	
4. インターンシップ教育	1) 職業教育の一環として行われるインターンシップの在り方についての調査研究、実習プログラムの開発	
5. 秘書学(広領域)	1) 女性労働に関する調査研究、特に秘書職をめぐる諸問題の考察	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) 北海道武蔵女子短期大学 教養学科付設課程「ビジネス教養 課程」における学内型インターン シップの企画運営	平成22年1月 平成23年1月	教養学科付設課程ビジネス教養課程代表として、企業実務家 らを講師とする演習型の職場模擬研修を企画主催し、全体コー ディネーターを務めた。
2) 北海道武蔵女子短期大学 卒業生支援としての「卒後3年目 サロン」の企画運営 (平成21年度文部科学省「大学教 育・学生支援推進事業」学生支援 推進プログラム採択事業)	平成21年10月 平成22年8月 平成23年1月	卒業生のキャリア支援として取り組んだ「卒後3年目サロン」 において、「キャリアブラッシュアップ講座」の講師を担当しキ ャリア形成についてのレクチャーを行うとともに、卒業生交流 会を主催しグループカウンセリングを行なった。また、在学生 を対象にキャリア支援シンポジウムを企画運営した。
3) 北海道武蔵女子短期大学 学生相談室主催「アサーティブ・ トレーニング」の企画運営	平成22年10月	学生のコミュニケーション能力を育成するため、「主張性訓練 (アサーティブ・トレーニング)」をグループ演習として開催し、 ファシリテーターを務めた。

事 項	年月日	概 要
4) 「学生プレゼンテーションコンテスト」の企画運営	平成22・23年1月	学生のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を目的として、道内大学・短大・専門学校生・留学生を対象とした課題解決型、問題解決型のビジネス・プレゼンテーションコンテストを企画運営している。(ビジネス実務学会北海道ブロック研究会活動の一環として実施。)
5) 北海道武蔵女子短期大学 学生相談室の運営と学生の心理調査の実施	平成22年12月	学生相談員(産業カウンセラー、キャリアカウンセラー)として学内の学生相談に携わり、非常勤臨床心理士と連携しながら学生相談の対応事例を積み上げてきた。平成22年からは相談室長を務め、全学生を対象とした「学生生活における悩み事、困り事アンケート」を実施し学生の現状把握を行った。
6) 北海道武蔵女子短期大学 「キャリア・アシストセンター」 の運営・コーディネート	平成21年9月 ～平成23年3月	平成21年度文部科学省学生支援推進プログラム採択事業のひとつとして開室した、在学生および卒業生を対象としたキャリア・アシストセンターの責任者として、非常勤カウンセラーの業務コーディネートを担当した。個別カウンセリングはもとより、グループワーク等、学生のニーズに合った支援システムを構築した。
7) 大学・短大・高校卒業生を対象 とした「卒後キャリア座談会」の 企画・コーディネート	平成22年2月 平成22年10月	高校から大学への接続、短大・大学から社会への接続を研究考察することを目的として、札幌市内の20数名の若年勤労者による座談会を企画開催した。若年者の就業観、勤労観を生声として聞き取ると同時に、高等教育機関が果たすべき役割について考える好機となった。本企画は、日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会活動の一環として実施したものである。
8) 教養学科カルティベーション・ プログラムの企画・コーディネ ート	平成22年9月	教養的学びを基盤にした学生の経験値を高め、視野を広げることを目的とした教養学科行事「カルティベーション・プログラム」を企画実施した。通常のカリキュラムから離れ、学生たちが日常触れる機会が少ない伝統文化、地域文化、歴史、芸術、文学などを楽しみながら学ぶプログラムを作成し、学習効果を上げた。
9) 教育FDの一環としての 「卒業生追跡調査」企画・実施	平成23年3月	全学教育FDの一環として、卒後3年までの卒業生1,200名を対象に、教学・学生・就職支援等に関する郵送アンケート調査を実施した。アンケート実施委員会の責任者を務め、アンケート設計から結果の分析までを行った。
10) 学生リーダー研修会の 企画立案、運営	平成22年3月 平成23年3月	短大学生会執行部員および、課外活動リーダーを養成するための研修会の企画立案を行った。研修資料の作成および講師、全体コーディネートを務め、主に、「組織・リーダー論」「会議の持ち方」「企画の立て方」「発表等のコミュニケーション能力向上」の分野を担当した。
11) 札幌大谷大学社会学部 「社会人基礎IV(キャリア入門)」 の学生教育指導	平成24年4月 ～現在	本科目は本学社会学部地域社会学科学生の初年次教育として開設しているものである。大学4年間の学びを社会でどのように活かせるかを見通し、将来にわたるキャリア形成を意識させることを目的としている。毎回グループディスカッションの時間を設け、「キャリアゲーム」の作成などを通してチームで協力して学べるように工夫している。また、働く人への聴き取りを経験させ、記事に仕上げて「キャリアインタビュー集」を作成させた。
12) 札幌大谷大学社会学部 「社会人基礎IV(グループディスカ ッション)」	平成25年4月～ 現在	本科目は本学社会学部地域社会学科2年生の選択科目として開設しているものである。社会人基礎力として要となる、チームで働く力の養成をねらいとして、設定されたテーマについてチームで話し合い、課題発見からよりよい解決策を導き出すための手法を実践的に学ばせている。

事 項	年月日	概 要
13) 札幌大谷大学社会学部 インターンシップ届け出制度(文 部科学省) 認定プログラムの作 成・運営	平成28年度、29 年度	平成30年に文部科学省はインターンシップの量的拡大・質的 充実に向けた具体的な推進方策の一つとして、「正規の教育課程 内で実施されているインターンシップ」について、一定の条件 を満たしたプログラムの届出認定制度を創設した。本学科が開 設当初から実施しているインターンシップがその要件を満たし ていることから届け出を行い、文部科学省が認定するプログラ ムとして選定された(道内私大4校がその対象となった)。
2 作成した教科書, 教材		
1) 『職業選択・就職に関する教育 支援プログラム』	平成14年3月	2001年度日本ビジネス実務学会より受託された教授法研究と して作成した大学生・短大生向けの就職支援教材として作成し たもの。テキスト執筆、映像教材制作、指導書の執筆 行なった。(共著) 日本ビジネス実務学会発行
2) 『キャリア形成のための基礎教 育プログラム』	平成20年9月	2007年度日本ビジネス実務学会教授法助成研究として開発し たキャリア形成理論と実践を学習するためのテキスト執筆、ワ ークシート作成、指導書の分担執筆を行った。(共著) 日本ビジ ネス実務学会発行
3) 『学びプロジェクト』北海道武 蔵女子短期大学(基礎ゼミ副教材)	平成21年4月	基礎ゼミにおいてスタディスキルを習得させるためのガイド ブックとして編集したオリジナル教材である。短大生活の送り 方、課題活動の意義から、講義の聴き方レジュメやレポート作 成、発表の技法、新聞の活用法まで、生涯にわたる学びの基本 をまとめた。特に、女子短大生の苦手意識が高い人間関係構築 やストレスマネジメントの考え方にも触れた。共著(42頁)
4) 『社会生活と人間関係 - 自分の 人生をデザインするために - 』	平成22年3月	北海道武蔵女子短期大学(共著) 学生時代から、社会人基礎力を身につけるために具体的に学 んでおくべきことをまとめたものである。若い時期から社会が 求める能力要素を意識した生活を送ることの必要性を説き、キ ャリア発達の基礎理論を紹介しながら、キャリアデザインの考 え方と進め方について言及した。(64頁) (共著者) 梶井祥子、 <u>和田佳子</u>
5) 『私の将来手帳 - 学び続けるた めに』	平成22年4月	北海道武蔵女子短期大学(共著) 本書は、平成21年度大学教育・学生支援推進事業に採択され たプロジェクトの一つとして作成したものである。初年次教育 の一環として、基礎ゼミ内で活用するための副教材である。大 学における学びの手法に触れ、学んだ痕跡をポートフォリオに して蓄積することを奨励するとともに、社会に出る前に備えて おくべき能力についての詳細を掲載した。本書を活用すること で、生涯にわたる自己学習力を鍛えていくことをねらいとした。 (64頁)(共著者) 梶井祥子、 <u>和田佳子</u>
6) 『女性と社会 - 混迷する時代を 生き抜く』	平成23年3月	北海道武蔵女子短期大学(共著) 「女性と社会」は、筆者らが担当する共通教養科目(生涯学 習系)のひとつである。現代女性を取り巻く状況を様々な視点 から捉え、職場や家庭で自立した生き方を探ることを目的とし ている。本書は、「女性と文化」「女性と法律」「女性と企業」「女 性と家族」「女性と政治」の5章で構成し、女子短大生らがこれ からの生き方・働き方を考えるヒントを与えている。 (68頁)(共著者) 梶井祥子、 <u>和田佳子</u>
7) 『札幌大谷大学社会学部地域社 会学科新入生ハンドブック2018』 (編纂)	平成30年4月	地域社会学科新入生オリエンテーション期間および基礎演習の 冒頭において、大学の仕組み、学びのルール、スタディスキル ズなどを理解させるための補助テキスト。学科のディプロマ・ ポリシーの理解、学生エンゲージメント、ゼミナールとは何か、 大学生活とキャリアデザインの考え方、履修の基本ルール、地 域活動に参加する意味、レポートの書き方の基本、学生生活と 就職活動のつながり、キャンパスハラスメントなど、初年次教 育として理解が必要な項目を取り上げた。(50頁)

事 項	年月日	概 要
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 札幌法務局管内法務局中間管理者研修（講演・講師）	平成16年11月	「心の健康づくりー職場のメンタルヘルス」（於：札幌法務局）
2) 北海道エンパワーメント研究会主催シンポジウムモデレーター	平成18年3月	北海道エンパワーメント研究会（北海道社会学会後援）シンポジウム「北海道の少子化問題と地域社会を考える」（於：北海道開発協会）
3) 長沼町成人講座（講演・研修）	平成18年3月	「コミュニケーションの実践」（於：長沼町教育委員会）
4) 札幌市生涯学習課主催「子育て後の再就職講座」（講演・講師）	平成18年3月	「子育て後のキャリアデザインを考えるーセルフプレゼンテーション」（於：札幌市生涯学習センターちえりあ）（道民カレッジ連携講座）
5) 札幌・仙台高等検察庁管内検察事務官研修（講演・講師）	平成18年5月	「公務における接遇」（於：札幌高等検察庁法務総合研究所札幌支所）
6) 北海道教育大学職員研修（講師）	平成18年5月	「職場のコミュニケーションとホスピタリティ」（於：北海道教育大学札幌分校）
7) 札幌高等検察庁秘書職員研修（講師）	平成19年3月	「秘書業務のしくみと活用」（於：札幌高等検察庁）
8) 伊達市民報告会（報告者）	平成19年7月	「少子高齢化とまちづくりーコミュニティのあり方に影響する男女の意識差」北海道エンパワーメント研究会（北海道開発協会）研究成果報告（於：だて歴史の杜カルチャーセンター）
9) 日本学生支援機構平成19年度北海道地区学生指導研究会（講演）	平成19年8月	「ともに育ちあう、障がい学生サポート～大学内ノートテイク制度立ち上げの事例報告を中心に」（於：KKR札幌）
10) 北海道エアウォーター物流株式会社社員研修（講師）	平成19年11月	「秘書の実務」（於：北海道エアウォーター物流株式会社）
11) 人事院北海道事務局平成20年度新採用社員研修（講師）	平成20年4月	「職業生活のスタートに」（於：人事院北海道事務局）
12) 北海道開発局事務中級研修（講師）	平成20年4月	「対人対応の基本ー顧客満足とクレーム対応」（於：北海道開発局研修センター）
13) 札幌西稜高等学校教職員研修（講師）	平成21年2月	「キャリアデザインの方向性ー目標設定と動機づけ」（於：札幌西稜高等学校）
14) 北海道活力研修協会「秘書実務1日セミナー」（講師）	平成21年7月	「秘書の実務ー理念と実践」（於：道特会館）
15) 日本年金機構職員研修（講演・講師）	平成21年7月	「職場の意識改革～職場のマナースタンダード～」（於：日本年金機構北海道ブロック会議室）
16) 北海道開発局職員研修（講師）	平成21年9月	「公務における面接対応ーなぜ、思いはうまく伝わらないのか」（於：北海道開発局研修センター）
17) 日本年金機構職員お客様相談室長研修（講師）	平成22年6月	「お客様相談室長の役割と期待」（於：札幌市産業振興センター）
18) A I G エジソン生命保険株式会社北海道事務センター中堅社員研修（講師）	平成21年6月	「キャリアの棚卸ーこれからの仕事を考える」（於：A I G エジソン生命札幌支社）

事 項	年月日	概 要
19) 北海道開発局管理者研修	平成22年6月・平成23年6月	「風通しの良い職場作り」 (於：北海道開発局研修センター)
20) 北海道開発局中堅技官研修(講師)	平成22年8月・平成23年8月	「面接対応-良好なコミュニケーションとは」 (於：北海道開発局研修センター)
21) 北海道江別高等学校 キャリア学習成果発表会 審査員・コメンテーター・講演	平成23年3月	高校1・2年生のキャリア学習成果発表会における審査およびコメンテーターとしてミニ講演 (於：北海道江別高等学校)
22) 北海道文教大学国際外国語学部 キャリアガイダンス(講師)	平成22年・23年・24年・25年10月	「キャリアデザインはなぜ必要か」、「ビジネス・コミュニケーション力を高めるためのマインドとスキル」(集中講義) (於：北海道文教大学)
23) 北海道江別高等学校インターンシップ準備講座(講演)	平成23年6月	「インターンシップ経験を高校生活にどう活かすか」(於：北海道江別高等学校)
24) 北海道鹿追高等学校キャリア講演(講演)	平成24年10月	「高校生のためのキャリアデザイン」(於：北海道鹿追高等学校)
25) 札幌東倫理法人モーニングセミナー(講演)	平成26年2月	「若者が夢を抱ける社会に～先を歩く私たちにできること～」 (於：ホテルロイトン札幌)
26) 第19回北海道就職指導実務担当者研修会(講演)	平成26年9月	「キャリア教育はどこへ向かうのかーキャリア教育導入第3期に入って思うこと」(於：札幌大谷大学)
27) 伊達緑丘高等学校進路講演会(講演)	平成28年3月	「夢を実現させるためのコミュニケーション」(於：伊達緑丘高等学校)
28) 第3回北海道人格教育フォーラム(基調講演)	平成29年2月	「キャリア教育とこころの教育ーキャリア教育にできることー」(於：かでる2・7)
29) 一般社団法人北海道中小企業家同友会 南空知支部7月例会(講演)	2019年7月	「地域に人を残す～若者に選ばれる会社、若者が残る会社」 (於：岩見沢生涯学習センターいわなび)

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年月日	概 要
1 資格免許 1) 教員免許 2) 秘書技能検定1級 3) 産業カウンセラー 4) 国家資格キャリアコンサルタント	昭和58年3月 昭和58年3月 昭和60年6月 平成10年4月 平成16年4月	中学校教諭一級普通免許状外国語(英語) 高等学校教諭二級普通免許状外国語(英語) 財団法人実務技能検定協会認定 社団法人日本産業カウンセラー協会認定 社団法人日本産業カウンセラー協会認定、 特定営利活動法人キャリアコンサルティング協議会認定 (2021年更新)
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 『北海道の女性たち』 第6章自立に係わる北海道女性の意識-経済的自立・仕事自立意識を中心として-	分担執筆	平成14年3月	北海道立女性プラザ発行	北海道立女性プラザ開設10周年記念誌として発刊されたものである。筆者は第6章を担当し、「自立にかかわる北海道女性の意識-経済的自立・仕事自立意識を中心として-」というテーマで執筆した。札幌市内在住の成人女性322人へのアンケート調査結果をもとに職業意識の視点から分析・考察した。 岡田淳子編著 pp. 90-99
2. 『働く女性』 第4章働く女性の職務満足とストレス	分担執筆	平成14年4月	文眞堂	道内の女性たちが、混迷する社会をどう生きてきたのか、また生きていこうとしているのか。道内の女性研究者8名がそれぞれの専門分野から現代的課題を抽出し、提言に繋げた。筆者は第4章を担当し、「働く女性の職務満足とストレス」について、産業カウンセリングの視点から考察した。 中川昌代編著 pp. 72-99
3. 『オフィスワークの基本 ビジネスコミュニケーションとマナー』	共著	平成15年3月	久須美英男プランニング事務所 (124頁)	大学・短大生を対象とした社会人基礎力育成、ビジネスマナー指導のためのテキストとして執筆した。コミュニケーション理論から職場で求められる実践的な知識まで、企業社会に巣立つ若者たちへのアドバイスをこめた社会人入門的テキストである。 (共著者 椿明美)
4. 『成功する仕事の基本とビジネスマナー』	共著	平成18年3月	寿郎社 (128頁)	学生・社会人のための実践的なビジネス実務テキストとして執筆した。オフィス実務に就く人が最低限知っておくべき知識やマナーをまとめた。単に記憶すればよいスキルにとどまらず、職業人生を見通しながら、現在の自分を見つめ、一社会人として自信をもって行動できるようにとの思いを込めて執筆した 学生・社会人のための実践的ビジネス実務テキスト (共著者 椿明美、官尾昌子)
5. 『新しい時代の秘書ビジネス論』 第2章秘書の役割と業務	共著	平成18年4月	紀伊国屋書店	全国大学実務教育協会が資格付与する上級秘書士・秘書士の必修科目「秘書学概論」授業で使用するための大学生・短大生向けの教科書である。同協会から委託された日本ビジネス実務学会会員18名がプロジェクトを組み、内容を精査し、分担執筆したものである。筆者は第2章の秘書の役割と業務について執筆した。 全国大学実務教育協会編集 pp. 21-49

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(著書)</p> <p>6.『新しい時代の秘書ビジネス実務』 第7章 慶弔・贈答のコーディネート</p> <p>7.『若者の「地域」志向とソーシャルキャピタル道内高校生1,755人の意識調査から』 第4章 地域創生と高校生のキャリア教育～地域が子ども・若者を育てる“ホンキ”の取り組みとは～</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成21年4月</p> <p>平成28年10月</p>	<p>紀伊国屋書店</p> <p>中西出版</p>	<p>全国大学実務教育協会が資格付与する上級秘書士・秘書士の「秘書実務」科目で使用される教科書として執筆したもの。先に発行された『秘書ビジネス論』に対応したテキストで、ビジネス・コーディネーターとしての秘書がどのような役割を担うのか、ストーリー形式で学べるように工夫した。筆者は、主に第7章の慶弔・贈答のコーディネートを分担執筆した。 全国大学実務教育協会編集 pp. 21-498</p> <p>北海道ソーシャルキャピタル研究会のメンバーにより、若者と地域のつながりをテーマに道内11か所で1,755名を対象にアンケート調査を行った。さらに、道内5校35名の高校生にヒアリング調査を行い、それらの結果について、社会学、経済学などの視点から分析を試みたものである。筆者は第4章を担当し、「地域創生と高校生のキャリア教育～地域が子ども・若者を育てる“ホンキ”の取り組みとは～」と題して、主に、鹿追高校の特色あるキャリア教育の手法を成果についてまとめた。 梶井祥子編著 pp. 139-172</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1.「短大職業教育における秘書教育の位置についての一考察—卒業生の追跡調査および教員評価の試みから—」</p> <p>2.「大学生の男女をめぐる意識と家族観」 (査読有)</p>	<p>単著</p> <p>共著</p>	<p>平成7年3月</p> <p>平成8年10月</p>	<p>『國學院短期大学紀要』 第13巻(國學院短期大学) pp. 161-182</p> <p>『日本人間関係学研究』 第3号第1巻、日本人間関係学会 pp. 43-52</p>	<p>地方の短期大学で職業教育に携わった筆者が担当した、いわゆる職業意識を醸成するための科目、実践実務を学ぶ科目と、各専門科目、教養科目とのつながりを整理し、より効果的な職業教育の在り方について考察した。その際、当時はまだ導入されていなかった「学生による教員評価」を実施し、その結果を分析対象とした。</p> <p>人口動態の変化は家族の多様化をもたらした。家族の内外の人間関係は複雑化している。特に男女をめぐる意識の変化は世界的な傾向でもある。本稿では若者たちが家族との関わりにおいてどのような意識を持っているのかを女子短大生を対象に量的調査を行い分析したものである。(共著者 入江明美)</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 3. 「ビジネス実務における創造性育成の試み」(査読有)	共著	平成9年3月	『ビジネス実務論集』 No. 15 (日本ビジネス実務学会) pp. 33-42	平成8年度版労働白書の中で今後ホワイトカラーが習得しなければならない力の一つとしてその重要性が繰り返し指摘されている「創造性の育成」に着目した。ビジネス実務教育の中で創造的思考、創造的態度を育むための教育法について文献を中心に考察し、その後教育プログラムを試案した。(共著者 椿明美)
4. 秘書士授業におけるディベート実践の報告	共著	平成10年3月	『札幌大谷大学紀要』第29号 (札幌大谷短期大学) pp. 51-62	コミュニケーション能力の向上と論理的思考の向上に有効とされる教授法のひとつであるディベートを短大秘書士課程授業に導入するプロセスと実践プログラム、実践後の省察についてまとめたもの。 (共著者 入江明美)
5. 「女子短大生の性役割観と就業に向けた自立意識-総合科目「女性と社会」講義の報告として-	単著	平成13年3月	『北海道武蔵女子短期大学紀要』第33号 (北海道武蔵女子短期大学) pp. 177-196	女性雇用労働者が2000万人を超え、社会進出が進んだとはいうものの、男女の固定的な性別役割分業観は社会の中で未だ脈々と続いており、課題も残る。次代を担う若者たち(特に女子短大生)が今後どのような意識で社会に参画していくのが望ましいのかを考える時間として平成12年度より「女性と社会」という科目を開設、授業の設計をおこなった。その講義内容と、履修学生の意識調査結果をまとめた。
6. 「企業の実状から探るビジネス実務教育の課題-札幌および近郊の企業秘書職に対する実態調査から-	共著	平成13年3月	『札幌国際大学紀要』第32号 (札幌国際大学) pp. 175-185	札幌および近郊の企業における秘書業務の実態や秘書職担当者の就業意識を把握し、ビジネス実務教育を考えるための基礎資料を得ることを目的として執筆した。企業サイドから見た秘書職の必要性、秘書の職務領域を中心に、企業153社、秘書33名からのアンケート調査結果を分析した。 (共著者 阿久津昭夫、佐々木邦子、椿明美)
7. 独身女性(40~50代)を中心とした中年女性の老後生活設計ニーズ及び社会的支援に関する調査	分担執筆	平成13年6月	財団法人シニアプラン開発機構調査報告書 pp. 40-60	少子高齢化の進展、成熟経済という新しい環境の中でシニアの生き方や生活設計はどう変化していくのか。将来のシニア層の家族形態の変化に着目しながら、全国の政令都市5市においてグループインタビュー調査を行い定性調査の結果を分析した。筆者は、第3章を担当し、中年女性の自立意識を考察した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 8. 新しい、女性のライフスタイル-ひとりでも豊かに生きられますか? -	単著	平成14年3月	平成13年度第13回武蔵教養セミナー講義集 pp. 65-84	「ゆたかさを生きる」をテーマにリレー形式で行われた短大主催の教養セミナーの講義録。日本の社会における女性のライフスタイルの変容をデータを交えて紹介し、シングル社会の到来を予測しながら、将来に備えるべき視点に言及した。講演時の内容をデータで補強したもの。
9. 新卒派遣社員および新卒契約社員の現状と女子短大生のキャリア支援-エンプロイアビリティ育成の課題 (査読有)	共著	平成16年3月	『ビジネス実務論集』 NO. 22、日本ビジネス実務学会 日本ビジネス実務学会 pp. 1-10	雇用形態が多様化し、新卒紹介派遣制や新卒契約社員制を導入する企業が増えつつある。本研究では短大卒業後、新卒派遣として雇用された人々を対象として行ったグループインタビュー結果をまとめ、これからの働き方の課題に言及した。(共著者 椿明美)
10. 北海道の少子化問題と地域社会を考える	共著	平成18年3月	北海道の少子化問題と地域社会を考えるシンポジウム報告書 北海道エンパワーメント研究会 (北海道開発協会) (104頁)	北海道エンパワーメント研究会では広域分散型、過疎地域が多い北海道の少子高齢化社会の課題について早くから調査研究を積み重ねてきた。研究成果報告の一環として、赤川学氏を始め専門家を招聘して行ったシンポジウムの記録と資料を合わせて研究成果報告とした。(共同研究者 金子勇、小林好宏ほか)
11. 「社会人基礎力」を育成するための教授法研究	共著	平成19年3月	北海道武蔵女子短期大学教育実践研究調査報告書 (平成18年度共同研究) (168頁)	平成18年土の教育実践助成により、共同研究としておこなったものである。全学科共通基礎科目「社会生活と人間関係」授業の学生評価と、この科目を履修して卒業した卒業生を対象に行ったアンケートを分析、その後、授業プログラムの改善、開発を行い、大人数講義に対応する教授法を試作した。
12. 女子短大生のキャリアデザイン-卒業後10年のキャリア形成プロセスにみるキャリア教育の役割 -	単著	平成19年3月	『北海道武蔵女子短期大学紀要』、第39号、北海道武蔵女子短期大学 pp. 204-236	女子短大生の卒業後のキャリアプロセスはここ数十年で大きく変化している。かつては、いわゆる「腰掛けOL」が少なくなかったものが、今は様変わりしている。将来のキャリアを見通して行うべき短大女子教育とはどうあるべきなのか。卒業後10年を経過した卒業生を追跡調査し、そこから分析・考察したものである。
13. 「社会人基礎力を育成するための教授法研究-共通教養科目『社会生活と人間関係』授業の学生評価と卒業生アンケートの結果から-」	共著	平成19年3月	『教育実践研究調査報告書 (平成18年度共同研究)』北海道武蔵女子短期大学 pp. 3-35	平成15年度から全学必修科目として開講された共通教養科目「社会生活と人間関係」について、開設から今日までを振り返り、学生および卒業生の評価分析を通して今後の課題を探ったものである。(共著者 梶井祥子)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 14. 「少子高齢化時代の地方都市の位置と課題-伊達市の調査から-」	分担執筆	平成19年7月	北海道エンパワーメント研究会 (財団法人北海道開発協会) pp. 85-99	この研究は北海道開発協会が主催する「北海道エンパワーメント研究会」(代表 金子勇)における調査研究結果の報告として提出したものである。伊達市民700名の協力を得て実施した訪問面接調査結果を踏まえて、筆者は第4章の「子育てと就労にまつわる男女の意識差」について執筆した。
15. 「女子短大卒業後10年のキャリア形成プロセスと生涯学習の現状」(査読有)	単著	平成20年3月	『ビジネス実務論集』No. 26 (日本ビジネス実務学会) pp. 69-80	女子短大を卒業した30代女性たちが、どのようなライフ・キャリアを築いているのかを、モデル分析の手法を用いて考察したものである。個別ヒアリングを通して「ライフ・キャリアヒストリー」を作成し、その分析から女性のライフステージごとの課題を分類した。
16. 「官民の協働関係構築の事例調査と社会関係資本に関する研究-非営利的市民活動が持続的なコミュニティを創出するためのインセンティブ-」	共著	平成21年6月	北海道開発協会平成21年度助成研究論文集 (北海道開発協会調査総合研究所) pp. 69-84	地方自治体を主体とする「行政セクター」と市民の非営利的組織またはNPO等の「市民セクター」との協働関係構築プロセスに着目しながら両者のパートナーシップについて検証することを目的とした。筆者は第2章を担当し、道内外6地域の事例調査をもとに、市民セクターと行政セクターとの協働の実態について執筆した。
17. 『卒後3年目サロン』を中核とした在学生・卒業生への多面的支援	共著	平成23年3月	平成21年・22年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム採択事業報告書 北海道武蔵女子短期大学(82頁)	平成21年度大学教育・学生支援推進事業プログラムに採択された「『卒後3年目サロン』を中核とした在学生・卒業生への多面的支援」の取組み概要と取組みの主旨、実施計画と実施内容について詳述した。筆者はプログラム実施後のアンケート結果を分析研究し卒業生支援の効果と重要性について言及した。 (共著者) 村岡ひとみ、梶井祥子、 <u>和田佳子</u>
18. 短大教育の職業的意義-汎用能力を高めるための教授法研究-	単著	平成23年3月	北海道武蔵女子短期大学紀要 第43号 pp. 25-60	本稿は、短大生および企業採用担当者を対象とするアンケート調査をもとに、短教育で養成すべき能力について考察したものである。企業側からは集団体験により培われるバランス感覚が要請されていることが明らかになり、今後の大学キャリア教育のあり方を考える上で大きな示唆を得た。また、社会人基礎力や汎用能力の中で、特に、女子短大生が苦手とする「主体性」「発信力」を育成するための教育技法を試案した。大講義室における授業においてTBL(チーム・ベースド・ラーニング)を試行し、その効果を明らかにした。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 19. 高等教育機関におけるキャリア教育のこれから—女子短大生の職業選択時における意識と不安克服の視点から—	単著	平成23年4月	『北海道地域総合研究』(北海道地域総合研究所) pp. 56-62	本稿は、2011年から高等教育機関に義務づけられるキャリア教育(職業・キャリアガイダンス)の意義と今後の方向性を探ったものである。1990年代半ば以降、大学新卒者の就職が重大な人生課題となり、政府も若者のキャリア形成支援に向けた施策を次々と打ち出している。大学教育から職業社会への接続が注視され、大学教育の職業的意義が厳しく問われる中で、大学におけるキャリア教育はどのように行われるべきなのかを学生の視点、企業の視点から考察した。
20. 汎用能力育成の指導法: 研修プログラム開発と教材開発を中心に	共著	平成23年11月	全国大学実務教育協会 pp. 51-65	本研究は全国大学実務教育協会より受託され、日本ビジネス実務学会に所属する研究チームで行った調査研究の成果をまとめたものである。まず大学教育にとって、学部学科を問わず卒業時に求められる能力、つまり大学生にとっての汎用的能力とはいかなるものかを分類整理した。筆者は主に、PBL教育実践者へのインタビュー調査と学生向け教案の作成を担当し、その成果について執筆した。 (共著者) 坪井明彦、池内健治、大島武、椿明美、見館好隆、和田佳子
21. ビジネス実務汎用的能力の抽出とその教育方法	共著	平成24年5月	2011年度 JAUCB 受託研究報告書 日本ビジネス実務学会 pp. 48-83	前年度に引き続き全国大学実務教育協会より受託した研究成果を発展的にまとめたものである。ビジネス実務における基礎的・汎用的能力とはどのようなものかを研究結果より導き出し、それらの能力をどのように育成できるかの検討を行った。本論では、汎用能力育成のための指導方法、指導者の研修方法、学生指導用のプログラムを提起した。 (共著者) 坪井明彦、池内健治、大島武、椿明美、見館好隆、和田佳子
22. キャリア教育科目における学修評価の課題—パフォーマンス評価とルーブリックの活用可能性を求めて—	単著	平成25年3月	『札幌大谷大学社会学部論集』第1号(2013) pp. 19-45	本稿では、高等教育機関の質保証が問われる時代の、教育評価の動向を捉えた上で、キャリア教育評価の特徴であるパフォーマンス評価および真正評価の課題を探る。その際、本学学生が参加したボランティア実習の評価を事例にして、評価の妥当性と望ましい評価の在り方について考察した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 23. キャリア教育における「教室内 PBL」-先行事例の調査と導入モデルの試み- (査読有)	共著	平成26年3月	『ビジネス実務論集』No. 32、日本ビジネス実務学会 pp. 26-35	本稿は人文・社会科学分野の学生を対象としたキャリア教育の一手法として注目されている「教室内 PBL」について検証したものである。西欧の代表的な PBL 実践校であるオランダ、ステンデン大学での視察結果を踏まえ、日本の高等教育機関への PBL 導入モデルを試案した。学部内の緻密な連携による統合的学習の重要性に言及した。
24. 地域創生と高校生のキャリア教育	共著	平成27年8月	北海道開発協会・北海道ソーシャルキャピタル研究会調査報告書 (分担執筆)	地域社会にとって高校生とはどのような存在なのか。ソーシャルキャピタルの観点から、道内11校、1,720人の高校生へのアンケート調査を行い、その結果を報告したものである。どのような志向を持っているのか、家族や地域の人々とのかかわりからどのような影響を受けているのか等、筆者はキャリア教育の視点から分析した。
25. 若手社員とコラボチームによる業務課題解決プロジェクト	共著	平成29年3月	日本ビジネス実務学会 2015・2016年度 JAUCB 受託研究 2016年度報告書 (23頁)	一般財団法人全国大学実務教育協会の受託研究として、日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会メンバー11名でプロジェクトを立ちあげ、学生の課題解決力を養成する手法を試案した。「産学コラボによる地域課題実践事業プロジェクト」と題して、アクティブ・ラーニングによる教育効果について考察した。 (研究代表者 関憲治)
26. 実務家教員ニーズ調査と研究会の在り方に関する検討-実務家研究ワーキング・グループからの報告-	共著	2019年3月	『日本ビジネス実務論集』No. 37、日本ビジネス実務学会 pp. 137-145	本稿は日本ビジネス実務学会からの受託研究として、実務家教員のニーズ調査結果及び学会の今後の在り方についての試案を提言したものである。実務家から教員に転身して比較的日の浅い教員に対して半構造化インタビューを積み重ね、研究上、または教育上の悩みや、学会による支援についてのニーズを調査分析した研究の最終報告である。本研究から導かれた結果は今後の学会の展開に一つの示唆を与えるものとなった。 (共著者) 大島武、坪井明彦、見館好隆、 <u>和田佳子</u> ほか

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 27. ビジネス分野の学修成果マトリクス改定とL0調査 28. ビジネス分野における学修成果マトリクスの改定プロセス 29. 「人文・社会科学系大学の学び・経験と職業的レリバンス」調査 30. 人文社会系学部卒業5年調査に見る、学び・経験と職業の関連性 — M-GTA による質的調査分析から —	共著 共著 共著 共著	2019年3月 2020年3月 2020年3月 2021年3月	平成30年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業成果報告書「分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上」 vol. 19 吉本圭一編『分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上 (2)』成果報告書 vo. 22、pp. 59-64 九州大学教育社会学研究集録 (査読有)、pp. 11-30 札幌国際大学紀要第52号 pp. 67-82	ビジネス分野を労働市場とした高等教育機関の学習プログラム内容を分類し、学修成果について検証したものである。文系・社会科学系の大学卒業生の職業移行の特徴を捉えるため、卒業後10年以内の社会人を対象としたwebアンケート調査を実施し、在学時の専攻分野と初職で求められる能力の関連性について計量分析を行いその結果を報告したものである。(共著者) 吉本圭一、江藤智佐子、亀野淳、椿明美、 <u>和田佳子</u> ほか 大学教育の質保証が問われる中、ビジネス分野の学修において可視化できる能力・技能について、国際比較を用いて検討しその成果をまとめた。 (共著者) 吉本圭一・亀野淳・ <u>和田佳子</u> ほか 「文系専門教育と関連する職業統合的学習の可能性と汎用的キャリア教育研究」(H26~H29年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(C))代表: 椿明美の研究の一環として実施した、文系大学卒業生の調査(マクロミルによるweb調査)を行い、結果から文系大学専門性についての課題をまとめた。(共著者) 椿 明美・和田佳子 文系大学卒業後4~6年を経過した社会人からのアリングを実施し、聞き取り内容をM-GTAの手法を用いて分析し、文系学生が抱えている職業絞り込みの困難性・課題を明らかにし、文系学部で行うべきキャリア教育のあり方を考察した。 (共同研究) <u>和田佳子</u> ・椿明美
(書評) 1. 吉本圭一著『学びを拓くキャリア教育』	単著	2022年3月	日本インターンシップ学会年報第24号 pp. 99-101	日本インターンシップ学会より委託を受けて、九州大学の教育社会学研究者、吉本圭一氏の著作、『学びを拓くキャリア教育』の書評を執筆した。 キャリア教育誕生までの経緯、日本のキャリア教育の特異性を海外の教育システムの違いから明らかにしており、初学者、ベテランを問わず、日本のキャリア教育の経緯を知る上で必読の書であることを述べた。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (口頭発表)				
1. 短大生の職業観にみる男女共生への意識	共著	平成7年9月	日本人間関係学会第3回全国大会 (於: 埼玉県民活動センター)	我が国の家族をめぐる環境は急速に変化し、多様化する家族は内に様々な問題を抱えながら揺らいでいる。本研究では、地方の短大女子学生235名を対象に家族や男女共生意識を調査し、その結果を分析・考察した。(共同研究者 入江明美)
2. 時代とともに変わる秘書教育-秘書実務演習オリジナルテキスト作成の過程から-	共著	平成8年6月	日本秘書学会第15回全国大会 (於: 福島女子短期大学)	経済環境および雇用環境の変化により、企業組織における秘書職の在り方に大きな変化が生じている。上司の補佐役としての秘書の本質は変わらないものの、補佐の質に変化が生じている。道内企業秘書へのインタビュー調査を踏まえた上で、秘書を学ぶ学生に伝えるべき内容を精査した。(共同研究者 椿明美)
3. 「キャリア形成のための基礎教育-初年次教育の展開事例-」	共著	平成20年6月	日本ビジネス実務学会第27回全国大会 (於: 九州共立大学)	本研究はキャリア形成を意識した高等教育における初年次教育の在り方について調査研究をおこなったものである。大学・短大入学時に身に付けたい基礎能力とはなにか、評価の視点も含め検証した。(共同研究者 武井昭也、椿明美、加藤由紀子、佐々木邦子、高橋秀幸)
4. 短大卒女子のキャリア形成支援 - 乗り越え力を強化するためのプログラム試案 -	単	平成22年10月	平成22年度 日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会 (於: 札幌国際大学経済センターキャンパス)	経験値の低さを課題とする短大生のキャリア形成基盤を磐石なものにするためには、自己啓発的経験を促し学習習慣を定着させることが先決であるとの考えにより企画した「カルティベーション・プログラム」等の取組みについて報告した。
5. 汎用能力を育成するための教授法試案	共	平成23年6月	日本ビジネス実務学会第30回全国大会 (於: 大手前大学)	1970年代に欧米で研究が始まったジェネリックスキルを日本の大学キャリア教育に援用する可能性を探り、学生の汎用能力育成のための教授法について具体的に提案した。(研究代表者 池内健治)
6. 汎用能力を育成するための PBL 授業の試み	共	平成23年10月	平成23年度 日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会 (於: 札幌国際大学経済センターキャンパス)	社会的汎用能力を育成するための教育技法として効果的な課題解決型学習について文献整理および実践事例調査を行った。また、労働環境を理解させるための TBL (team-based learning) の教材を作成し、大学生 (初年次生) を対象に行った授業から導きだされた効果について報告した。 (共同研究者) 椿明美

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (口頭発表) 7. 道内の大学・短期大学におけるインターンシップとキャリア教育の現状と課題-教育機関・卒業生アンケートの基礎資料として-	共	平成24年3月	日本インターンシップ学会北海道支部研究会 (於: 札幌国際大学経済センターキャンパス)	キャリア教育の定義が未だ定まらない中で、北海道内の大学・短期大学で行われているキャリア教育の現状を調査した。HP上で公開されている教育課程、シラバス、インターンシップの実施状況、キャリア支援体制を抽出し、類型整理した結果を報告した。 (共同研究者) 椿明美
8. 高等教育機関におけるキャリア教育とビジネス実務	共	平成24年11月	平成24年度日本ビジネス実務学会 北海道ブロック研究会 (於: 北海商科大学)	「社会的・職業的自立に向けた指導(キャリアガイダンス)」の法令化を契機に、大学・短大におけるキャリア教育の位置づけや展開はどのように変化したのだろうか。道内10大大学(短大含む)のキャリアセンターへの訪問調査により、その実体をまとめた。 (共同研究者) 椿明美
9. 「日本の高等教育におけるキャリア教育の現状と方向性-イギリス、オランダ事例との比較から-」	共	平成25年6月	日本ビジネス実務学会第32回全国大会(全国) 於: 福島学院大学	本研究は平成23年度~25年度の3年間の計画で取り組んでいる「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」(文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)(課題番号23330246)(研究代表者 椿明美)の研究成果の一部を報告したものである。(共同研究者 椿明美、沢田隆、小林純)
10. オランダにおける高等職業教育-ステンデン大学の教育事例をもとに-	共	平成25年9月	日本インターンシップ学会第14回大会(於: 北海道武蔵女子短期大学)	「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」(平成23-25年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)、代表: 椿明美・札幌国際大学教授)の研究成果を報告した。
11. インターンシップ仲介機関・仲介業者の在り方に関する一考察	単	平成25年9月	日本インターンシップ学会第14回大会(於: 北海道武蔵女子短期大学)	若年者就業の課題を解決すべく、政策主導による学生インターンシップ実施率は急速に高まっている。一方、参加学生は在学生の1割程度に留まっているのが現状であり、広く普く行き渡らせるにはまだ多くの課題が残る。インターンシップ仲介企業の活用について、イギリス等の事例をもとに考察した。
12. 私立文系大学におけるインターンシップ・キャリア教育の意識-教育機関アンケート調査結果から-	共	平成25年9月	日本インターンシップ学会第14回大会(於: 北海道武蔵女子短期大学)	「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」(平成23-25年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)、代表: 椿明美・札幌国際大学教授)の研究成果の一部として行った教育機関アンケート結果を報告した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (口頭発表) 13. 企業と学生の認識差異-主体性の本質と就業力に求められているもの-	共	平成25年11月	平成25年度日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会 (於: 北海商科大学)	H24年の経団連調査結果によれば、今後企業が若者に求める能力として、より主体的に行動できることが挙げられている。企業が求める能力と学生が自ら必要と考える能力にはズレがある。特に、「主体的に行動する」とはどういうことなのか。企業と学生の意識差を探った。
14. 教室内PBLの効果と課題	共	平成26年11月	平成26年度日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会 (於: 北海商科大学)	教室内で行う課題解決型のグループワークによって醸成されるチームワーク力やコミュニケーション力について、授業開始前と授業終了時のアンケート調査によって考察した。女子短大生を対象にして行った調査では、9割以上に意識変化が確認された。
15. 大学キャリア教育はどこへ向かうのかの-キャリア教育の過去・現在・未来-	単	平成26年6月	日本私立大学協会北海道支部第19回就職指導実務担当者研修会 (札幌)	キャリア教育の歴史を概観し、進路指導、就職指導からキャリア支援にシフトしてきたプロセスを辿った。価値観の多様化、就業環境の変化の中で、若者のキャリア選択を支えるための課題を提起した。イタリア、レッチョ・エミリア市の事例から、幼少期から地域が子供の育ちを支える理念の中に、若者のキャリア支援の指針が示唆されることを伝えた。
16. 教室内PBL学習による短大生のコミュニケーション能力の伸長と課題	共	平成29年6月	日本ビジネス実務学会第36回全国大会 (於: 神戸女学院短大)	人文・社会科学分野の学生を対象としたキャリア教育の一手法として注目されている「教室内PBL」授業を、ビジネス系短期大学学生を対象に実践し、その教育効果について検証報告したものである。授業前・授業後アンケート結果と、PROGによるコンピテンシーおよびリテラシー得点の相関を見ることで、PBL教育の課題を明らかにした。(共同研究者 椿明美)
17. 実務家教員のニーズ調査-日本ビジネス実務学会会員調査からの分析- (日本ビジネス実務学会受託研究)	共	平成30年6月	日本ビジネス実務学会第37回全国大会 (於: 徳島文理大学)	本発表は、日本ビジネス実務学会からの受託研究報告である。実務家教員の入会が増加傾向にある当学会会員を対象として、実務経験を経て教壇に立つ入職5年以内の会員を対象に半構造化インタビューを重ね、その結果を整理した。実務家から教員に転職した経緯、実務経験の内容、授業運営および研究活動上の課題等を聞き取り分析した結果、授業運営手法よりも研究手法に関する研修機会獲得への関心が高いことが明らかになり、今後の学会運営の課題が浮かび上がった。(共同研究者 大島武)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (口頭発表) 18. ビジネス分野における職業能力と学習モジュール—韓国 National Competency Standards (NCS) を事例として—</p>	共著	2019年6月	日本ビジネス実務学会第38回大会 (目白大学)	<p>2019年2月に韓国の職業開発機構 (CRIVET)、専門職大学、敬仁女子大学を訪問し行ったヒアリング調査結果をもとに、韓国の職業教育システムについて考察したのち、日本の大学生が修得すべきビジネス分野の能力・技能について整理・可視化した。 (共同研究者) 江藤智佐子・椿明美・<u>和田佳子</u></p>
<p>19. 「文系大学卒業生の職業選択絞り込みのプロセス:M-GTAによる質的調査分析」</p>	共著	2020年2月	2019年度日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会	<p>文系大学卒業後4～6年を経過した社会人からのアリングを実施し、聞き取り内容をM-GTAの手法を用いて分析し、文系学生が抱えている職業絞り込みの困難性・課題を明らかにし、文系学部で行うべきキャリア教育のあり方を考察した。 (共同研究) <u>和田佳子</u>・椿明美</p>
<p>20. 人文・社会科学系学部教育の社会的効用—卒業生アンケート調査結果から—</p>	共著	2020年2月	2019年度日本インターンシップ学会北海道支部研究会	<p>人文・社会科学系の学びは社会に出て役に立つのか、立たないのか。役に立っているとすれば、何が役に立っているのかという問いをもとに、全国文系大学卒業後4～6年の社会人を対象に量的調査を行い、その結果をまとめた。 (共同研究) 椿明美・<u>和田佳子</u></p>
<p>21. 混合研究法を用いた、文系学部卒業生調査分析の試み</p>	共著	2021年2月	2020年度日本インターンシップ学会北海道支部研究会	<p>量的調査と質的調査、双方の強みを掛け合わせる「混合研究」(ジョン・クレスウェル) の考え方を取り入れて、「文系卒業生調査」結果を考察した。量的調査結果を質的調査結果で補完する説明的順次デザイン、質的調査結果を量的調査に活かし、研究の幅と可能性を広げる探索的順次デザインの手法を援用することで分析視点が広がることを実証した。 (共同研究) 椿明美・<u>和田佳子</u></p>
<p>22. 「文系大学におけるジョブ型採用に対応し得るインターンシップの模索—コロナ禍のインターンシップ調査から」</p>	共著	2022年3月	2021年度日本インターンシップ学会北海道支部研究会 (2022年3月13日オンライン開催)	<p>「文系専門教育と関連する職業統合的学習の可能性と汎用的キャリア教育研究」文部科学省科学研究費助成事業基盤研究 (C) 代表: 椿明美・札幌国際大学教授の研究協力者として、コロナ禍の中のインターンシップ参加状況について文系大学生を対象にインタビュー調査を行い、結果を考察して日本インターンシップ学会北海道支部研究会で発表した。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (原稿執筆・報告書編纂)				
1. 大学におけるキャリア教育の今～社会との接続の課題	単著	平成25年6月	『産業訓練』No. 59 一般財団法人日本産業訓練協会	主に企業人事担当者を読者とする研修サポート雑誌『産業訓練』より依頼があり執筆したもの。大学におけるキャリア教育の現状について述べた後、当事者意識を育てるPBL教育の試みについて紹介した。
2. 平成26年度社会学部インターンシップ実習報告書(編著)	共著	平成26年11月	札幌大谷大学社会学部発行	札幌大谷大学社会学部地域社会学科3年生43名が参加した企業インターンシップの企画プロジェクトの流れを報告書としてまとめた。本インターンシップの目的、事前指導の内容、企業と学生のマッチングの方法の記載に始まり、学生から提出された実習日誌と報告レポート、企業から受けた評価について報告した。また、後日開催した「インターンシップ報告会」の様子を収録した。 (編著) 和田佳子
3. 平成27年度社会学部インターンシップ報告会・実習報告書	共著	平成27年11月	札幌大谷大学社会学部発行	平成27年度に実施した、社会学部インターンシップの事前準備から事後報告、事後指導までのプロセスを記録し、報告書としてまとめた。社会学部学生45名が札幌市内および近郊の企業31社で職場体験を行った。大学の学びを社会にどのように接続できるか、学生らの研修日誌および、企業からの評価をもとにその成果を考察した。 (編纂) 和田佳子
4. 道内高校生の地域志向とつながり願望(座談会記録)	共著	平成27年5月	開発こうほう2015年5月号 一般財団法人北海道開発協会	北海道ソーシャルキャピタル研究会の一員として、平成25年から道内高校生の意識調査アンケートと、ヒアリング調査を行ってきた。その成果をもとに、研究員6名が各専門分野から、高校生の地域志向が地域の重要な社会関係資本になり得るか、その可能性を探った座談会記録である。24-29頁
5. 若者の「地域」志向とソーシャルキャピタル～道内高校生1755人の意識調査から～(座談会記録)	共著	平成29年5月	開発こうほう2017年5月号 一般財団法人北海道開発協会	北海道ソーシャルキャピタル研究会の一員として行った、道内高校生1755人調査結果およびヒアリング調査結果を分析・考察し、『若者の地域志向とソーシャルキャピタル』(中西出版)として平成28年10月に出版した。本座談会は、その出版記念として企画され、共同研究者とともに調査を振り返った座談会記録である。24-29頁

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (原稿執筆・報告書編纂) 6. 平成29年度社会学部インターンシップ実習報告書(編纂)</p> <p>7. 若手社員とコラボチームによる業務課題解決プロジェクト</p> <p>8. 実務家教員ニーズについての調査研究—学会新規入会者が抱える課題(日本ビジネス実務学会受託研究)</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成29年11月</p> <p>平成29年6月</p> <p>平成30年3月</p>	<p>札幌大谷大学社会学部発行</p> <p>日本ビジネス実務学会 JAUCB 受託研究報告書</p> <p>日本ビジネス実務学会受託研究報告書</p>	<p>札幌大谷大学社会学部地域社会学科3年生43名が参加した企業インターンシップについて、学生から提出された実習報告レポートと、後日開催した「インターンシップ報告会」の様子を収録・編集したものである。なお、教育課程に位置づけている本インターンシップは、文部科学省が求める諸条件に合致することから、「大学等におけるインターンシップ届け出制度」申請校として文科省 HP に公表されるに至ったものである。(編纂) 和田佳子</p> <p>JAUCB(全国大学短期大学実務教育協会)の受託研究として、日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会メンバーが、共同で行った教育実践プロジェクトの成果をまとめたものである。インターンシップの一類型として、学生と企業の若手社員がチームを作り課題解決に取り組むことを主旨として実践、その成果と課題について考察したものである。 (共同研究) 和田佳子、関憲治ほか (共) 1-23頁</p> <p>大学設置基準改正により、高等教育機関において広く実務の世界から教員を迎え入れる大学が増加した。特にビジネス実務を研究領域とする当学会では、特定の分野での高い実績を持つ実務家教員の比率が高まっている。実務界から教員になって概ね5年以内の学会員(非学会員を含む)対象として、研究・教育に関わるニーズ等を、半構造化インタビューを通して収集し報告した。 (共同研究) 大島武、見館好隆ほか</p>
<p>(その他) (新聞掲載・エッセー) 1. 「少しだけ先輩」</p> <p>2. 「カラ破り自立の時代」(家族論)</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成7年9月11日～11月27日</p> <p>平成8年1月</p>	<p>北海道新聞(生活面)コラム</p> <p>北海道新聞生活欄1面</p>	<p>秘書職や教員生活における失敗談や気づきのエピソードを紹介しながら、学生や若者へのメッセージを10回にわたってコラム執筆した。</p> <p>北海道新聞元旦特集の生活欄1面に家族にまつわる時代的変容について執筆した。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(報告書) 1. 令和3年度札幌市教育委員会事務点検・評価報告書	分担執筆	2022年8月	札幌市教育委員会	札幌市が札幌市教育アクションプランに基づき施行している教育行政についての点検評価委員として、「自ら学び、ともに生きる力を培う学びの推進」「多様な学びを支える環境の充実」「市民ぐるみで支え合う仕組みづくり」の観点から点検評価を行い、報告書に執筆した。